

まちづくり 地方版

中西 卓

去る12月1日、岡山商工会議所主催の「まちづくりシンポジウム『21世紀・岡山市の条件』」を聴いた。9月にドイツ・フランス・ルクセンブルグの視察に参加したメンバーによるもので、地元識者のまちづくりへの考えを知り、普段は縁遠い世界にふれることができた。パネリスト諸氏のありきたりでない発言に岡山の元気を感じ、心強くも思った。これはシンポジウムで聴いたことに主観をまじえてメモした地方都市におけるまちづくりの断片である。

規模より中身が必要：都市の人口・面積は一つの指標にすぎない。文化や産業にアイデンティティがあり、住民が誇りを持つるわがまちでなければならない。

ドイツで多くの州都の人口は必ずしも多くない。例えばヘッセン州で断トツのフランクフルトは州都でも県都でもない。前者はヴィースバーデン、後者はダルムシュタットである。嘗て東独の古都ドレスデンはドイツのシリコンバレーといわれるハイテクのまちである。ハイデルベルクも古い街であるが、大学を中心にバイオテクノロジーがハイレベル。カールスルーエは技術者と職人（マイスター）が多いそうである。フランス東北端の地方都市ストラスブールは、欧州議会の所在地であり、LRTが都市交通の先進モデルになっている、大学の街でもある。

一極集中は異常：海外で企業の本社が片田舎にあるのは珍しくない。キリンビールの本社が万富（岡山県赤磐郡瀬戸町、中四国の拠点工場）にあってもおかしくない。

岡山市は政令指定都市をめざしてしゃにむに周辺の町を合併しようとしている、更には中四国州を唱えてその核にと唱える向きがあるが、相応の中身が伴わなければならない。行政は小さくて身近にある（距離が近いことも）のが、地方分権の本来の姿である。ヨーロッパでは市長と町村長が対等で、市が隣の町村を吸収合併するようなことはないらしい。


まちづくりにはシミュレーションなどシステムエンジニアリングによる検証が必要で、客観的にチェックしながら進めれば方向を誤ることがないだろう。

別稿「駈け足で見てきたドイツ」は、上記視察団が訪欧した直後の9月26日から私が環境団体のエコツアーに参加し、そのあと気候な一人旅をした印象記です。これを市民運動仲間の季刊誌に掲載後、上記シンポジウムの案内を受けました。お陰でドイツを訪ねて得た自分なりの考えが敷衍できてよかったと思っています。（終）

12月7日の朝日新聞スポーツ頁のシンポジウム・日独サッカー交流に、傍士銑太氏（上記シンポジウムのパネリスト）の「W杯へとつながる歩みに」が出ていて、Jリーグに共通する『おらが町のチーム』を述べています。

岡山商工会議所 欧州視察報告会
まちづくりシンポジウム

21世紀・岡山市の条件



【日時】平成17年12月1日(木)
14:00-16:00
【場所】岡山国際交流センター
「国際会議場」

岡山商工会議所では9/17-9/24の日程で海外視察会を企画し、当所議員をはじめ市、大学・研究機関などから17名の参加を得て実施しました。視察のテーマには、道州制や産官学連携、文化・まちづくりなどを取り上げ、ドイツ・フランス・ルクセンブルグを訪視し、各国の先進的な取り組みについて視察を行いました。
本日は、岡山市が政令指定都市をめざすための条件を、現地での視察、取材を参考にしながら、次の項目ごとに盛り下げてみたいと思います。

PART-1 道州制を見つけた地方自治のあり方について

PART-2 産官学連携体制とその推進について

PART-3 文化振興について

PART-4 まちづくりについて

パネリスト	
傍士 銑太	日本政策投資銀行岡山事務所長
齊藤 桂	岡山県車と都市の未来を考える会(RACDA)
三木 良一	(株)山陽新聞社経済部記者
竹沢 徳昭	山陽放送南報道部記者
前坂 匡紀	議長 岡山商工会議所副会長
コーディネーター	
中井 遼	岡山県立大学教授・社会総合研究所長